

水滸伝 三國志 西遊記



平成18年度 筑波大学附属図書館企画展

中国三大奇書の成立と受容

『三国志』『水滸伝』『西遊記』はどのように読まれ、描かれたか

筑波大学附属図書館

平成 18 年度 筑波大学附属図書館企画展

中国三大奇書の成立と受容

— 『三国志』『水滸伝』『西遊記』はどのように読まれ、描かれたか —

会期 平成 18 年 10 月 2 日（月）～ 10 月 27 日（金）

会場 筑波大学附属図書館（中央図書館貴重書展示室）

主催 筑波大学附属図書館

凡 例

1. 本書は筑波大学附属図書館の企画展「中国三大奇書の成立と受容－『三国志』『水滸伝』『西遊記』はどのように読まれ、描かれたか－」（会期：平成 18 年 10 月 2 日（月）～10 月 27 日（金））の図録である。
2. 図版等に付される番号は、「図」を除き展示資料の番号と一致する。
3. 都合により一部の展示資料の掲載を割愛した。
4. 本文中の太字は図版があることを示す。
5. 旧字体は新字体に改めた。
6. 本文の執筆は、本学助教授大塚秀明及び当企画展ワーキング・グループ主査篠塚富士男が担当した。篠塚富士男署名以外は大塚秀明の執筆である。

表 紙

左上：絵本通俗三国志

右上：李卓吾先生批評西遊記

中央：新編水滸画伝

ご 挨拶

高等教育機関としての大学の改革が言われて久しい。筑波大学でも来年度から、開学以来最大規模となる学群教育組織の再編成が行われる。附属図書館も大学の改革に呼応して、いくつかの改革の試みが進行中である。その一つが平成 17 年度から図書館内に研究開発室を設置したことである。研究開発室にはいくつかのテーマに従ったサブグループを設け、図書館機能の高度化、サービスの拡充に向けた研究開発・検討を行ってもらっているが、毎年実施している「特別展」もテーマの一つに含めている。

「特別展」は、これまで学内の教育研究組織の支援を得て附属図書館と当該組織との共催の形式で開催してきた。平成 7 年からすでに 10 年余を経て、筑波大学の秋の催しとしてすっかり定着している。教育研究活動の成果と、附属図書館の所有する貴重書を中心とする資料展示との連携は、毎回学内外からの多数の来場者の皆さまに高い評価を得てきている。

今回は、これまでの「特別展」とは趣を変えて、附属図書館と研究開発室とが共同で「企画展」を開催する。図書館主体の企画であること、貴重書だけではなく基本書を中心とした構成であることが特徴である。内容も古くから日本人に親しまれ、映画や漫画そしてアニメにもたびたび取り上げられている中国三大奇書を巡るものである。今回の出品物の大部分は基本書である。本展示会が終了すれば館内の所定の書架に戻され、閲覧や館外貸出にも供せられる。持つものの強みである。この企画展を通して、利用者にあまり知られずに眠っていた資料、手に取られることの少なかった書籍が日の目を見て、活発に利用されれば幸いである。

研究開発室員と附属図書館企画展ワーキンググループ諸氏の取組みを大いに楽しみたい。

各位のご支援・ご鞭撻をお願いする次第である。

平成 18 年 10 月

筑波大学附属図書館長

植松 貞夫

展示資料一覧

番号	資料名	所蔵
1-1	大唐西域記	和装古書 ネ 357-2
1-2	清明上河図	和装古書 722.25-C52
1-3	至治新刊全相平話三国志	和装古書 923.5-Z3
1-4	新刊宣和遺事	923.08-Ko27-558
1-5	元曲選（梁山泊李逵負荊雜劇）	和装古書 922.5-Z5-43
1-6	三国志通俗演義	923.5-R11
1-7	水滸伝 容与堂本	923.5-Su51
1-8	精鑄合刻三国水滸全伝（別書名：英雄譜）	貴重図書 ル 385-2
1-9	水滸後伝	貴重図書 ル 385-5
1-10	増像全図加批西遊記	和装古書 ル 385-7
1-11	明陳洪綬水滸葉子	923.5-C46
2-1	通俗三国志	個人蔵
2-2	通俗忠義水滸伝	和装古書 ル 385-74
2-3	忠義水滸伝解	和装古書 ル 385-3
2-4	演義三国志図鑑	ル 385-181
2-5	新編水滸画伝	個人蔵
2-6	絵本西遊記	イ 300-451-60
2-7	本朝三国志	和装古書 ヨ 380-90
2-8	稗史水滸伝・国字水滸伝	和装古書 ル 156-41
2-9	金比羅船利生纜	和装古書 ル 156-43
2-10	南総里見八犬伝	貴重図書 ル 156-15
2-11	英傑三国誌伝	個人蔵
2-12	筑波水滸伝	和装古書 913.6-Ki29
3-1	連環図画西遊記	個人蔵
3-2	新版水滸伝連環図	和装古書 カ 210-722
3-3	西遊漫記	ル 385-258
3-4	銭形平次捕物百話	個人蔵
3-5	三国志・水滸伝・西遊記 DVD（中国中央電視台制作）	CL0226、CL0240、CL0335
4-1	絵本西遊全伝	個人蔵
4-2	町人囊	和装古書 ロ 580-201
4-3	孫悟空	個人蔵
4-4	芥川龍之介「河童」自筆原稿複製品	個人蔵
4-5	清俗紀聞	和装古書 ヤ 620-1
4-6	三才図会	和装古書 イ 290-48

所蔵は当館の請求記号
（「個人蔵」を除く）

目 次

ご挨拶 植松貞夫・・・・・・・・・・・・・・・・	3
展示資料一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	4
目次・・・・・・・・・・・・・・・・	5
導入部 外来文化の受容と日本文化の発信・・・・・・・・	6
第1部 中国での成立・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1 小説の史実と虚構性	
2 講談本と舞台本	
3 刊行本と続書	
4 演劇と美術	
第2部 日本での受容・・・・・・・・・・・・・・・・	14
1 原書の到来と和刻本の出版	
2 翻訳本の出版と辞書の隆盛	
3 絵本本の出版と図像の隆盛	
4 翻案本の出版	
第3部 子どもから大人まで・・・・・・・・・・・・・・・・	26
1 中国「連環画」の誕生	
2 『三国志』—吉川英治による再構成	
3 『水滸伝』—銭形平次のルーツ	
4 『西遊記』—エノケンの舞台と映画	
第4部 ブタとカッパと青龍刀・・・・・・・・・・・・・・・・	30
1 日本人は猪八戒をイノシシと誤訳した	
2 カッパの沙悟浄は日本人が創作した	
3 青龍刀は日本人が転用した	

導入部 外来文化の受容と日本文化の発信

日本は、古くは朝鮮半島から漢字が伝わり、遣隋使・遣唐使を通して当時の先進文化を中国から取り入れ、明治以降は主として政府派遣留学生を通して西洋から近代文化を摂取してきた。日本にとって進んだ文化は、船で運ばれた舶来品であった。

こうした外来文化の受容一辺倒であった日本も 1980 年代に入ると、たとえば日本製アニメが中国・韓国などのアジア諸国に、そして世界に発信し受容されてきた。

中国語圏では、『ドラえもん』は、“機器猫”と訳され「機械・ロボット猫」の意であり、またローマ字を挟んだ“哆啦A夢”とも音訳され（漢字に口ヘンが付いて音訳であることを示す）、また“小叮当”とも音訳されている（「小」は親しみを表わし「叮当」は銅鑼の擬音語、やはり口ヘンが付く）。三種の意識と音訳は中国語圏の多様性を反映しているようにも思われる。『ドラえもん』だけでなく、多くマンガやアニメが発信されている。

こうした日本製のマンガやアニメを受容した国や地域では翻訳や吹き替えがなされ、その影響を受け日本のものとは趣を異にする独特の作品が生まれている。

人間が行き来して、モノをやり取りして新しい文化が生み出されてきた文化接触は、これまでにいつの時代にも、さまざまな地域で行われてきた。

今日見られる日本製のマンガやアニメの発信と受容が 400 年前の江戸時代の日本にもたらされた『三国志』『水滸伝』『西遊記』についてもいえるのではないだろうか。今回の企画展はこのような疑問から出発した。

なお、本企画展では中国文学史で使われる「四大奇書」から『金瓶梅』を除いた上述 3 書を「三大奇書」と呼ぶ。成書過程の違いや日本人の受容度の違いを考えての命名である。また『三国志』とは『三国演义』あるいは『三国志演義』を指し、字体も通用の字体を用い簡略に従った。



中国で出版された日本製のマンガの数々

第 1 部 中国での成立

大衆が長い時間をかけ育んだ文芸には、言語で表現される詩・小説・戯曲だけでなく、芸術・演劇・音楽など広い分野が含まれる。小説は書籍という形態をもち、時空間を越えた伝播が可能である。日本に伝わった書籍はどのように成立したのか、その流れを見る。

1 小説の史実と虚構性

『源氏物語』では「いづれの御時にか」と始まるが、中国の小説は虚構でも時代を明記する。三大奇書も『三国志』には三国時代 (220-280) を記録した史書、陳寿著『三国志』があり、『西遊記』には唐代 (618-907) 三蔵法師による天竺への取経旅行の見聞を書いた『大唐西域記』があり、『水滸伝』には宋代 (960-1279) 宋江を首領とする一団が帰順して異民族を討ったことを記録する『三朝北盟会編』があり、時代が特定されている。史実が伝承され、その過程で創作が加わり、物語として講談や芝居に登場する。テレビやラジオがなかった時代では街が三大奇書の原型を育んだ。張昞端による『清明上河図』はそうした宋代の街の賑わいを伝える巻物である。

2 講談本と舞台本

元代 (1206-1368) には講釈師の手控や芝居の概要を読物風にして挿絵を文の上に添えた『至治新刊全相平話三国志』が出版され、『水滸伝』の原型『新刊宣和遺事』にはすでに 36 人の名が列举され、『元曲選』所収の雜劇「梁山泊李逵負荊」「黒旋風双献功」などは後の刊行本の一場面に組み込まれている。『西遊記』にもやや時代は遡るが『大唐三蔵取経詩話』が祖本としてあり、朝鮮で編まれた中国語テキストにも『西遊記』の話が載っている。

3 刊行本と続書

明代 (1368-1644) にはそれまでの物語を集大成したものとして、『三国志』では嘉靖本とされる『三国志通俗演義』があり、後の清代 (1616-1911) には今日流布している定本が完成した。『水滸伝』では『水滸伝容与堂本』百回本、後に『水滸全伝』百二十回本ができ清代には七十回本が定本となった。『西遊記』では世徳堂『西遊記』が万暦年間に作られ後には『李卓吾先生批評西遊記』が読まれるようになった。また三国志と水滸伝が上下に配された『精鑄合刻三国水滸全伝』、別名『英雄譜』も今に伝わり、本学所蔵の貴重書になっている。集大成本がまともな簡略や増補など各種の版本が生まれると同時に、物語の後日談として『後三国演義』『水滸後伝』『後西遊記』などの続書も生まれた。とりわけ『水滸後伝』は生き残った 36 人とその子孫の活躍を海外飛翔物語として描き、時代を反映した作品としての評価も高く、これも本学の貴重書となっている。木版や活版に比べ安く印刷できる石版印刷の伝来も清代である。『増像全図加批西遊記』には清代最後の「宣統」の年号が入っている。

4 演劇と美術

三大奇書は、京劇の演題に三国志「借東風」、水滸伝「野猪林」、西遊記「鬧天宮」があり、年画の題材に三国志「三顧茅廬」、水滸伝「選仙図」、西遊記「蟠桃宴」があり、マージャンの祖である「馬吊」の絵には宋江以下 40 人を描いた『明陳洪綬水滸葉子』がある。



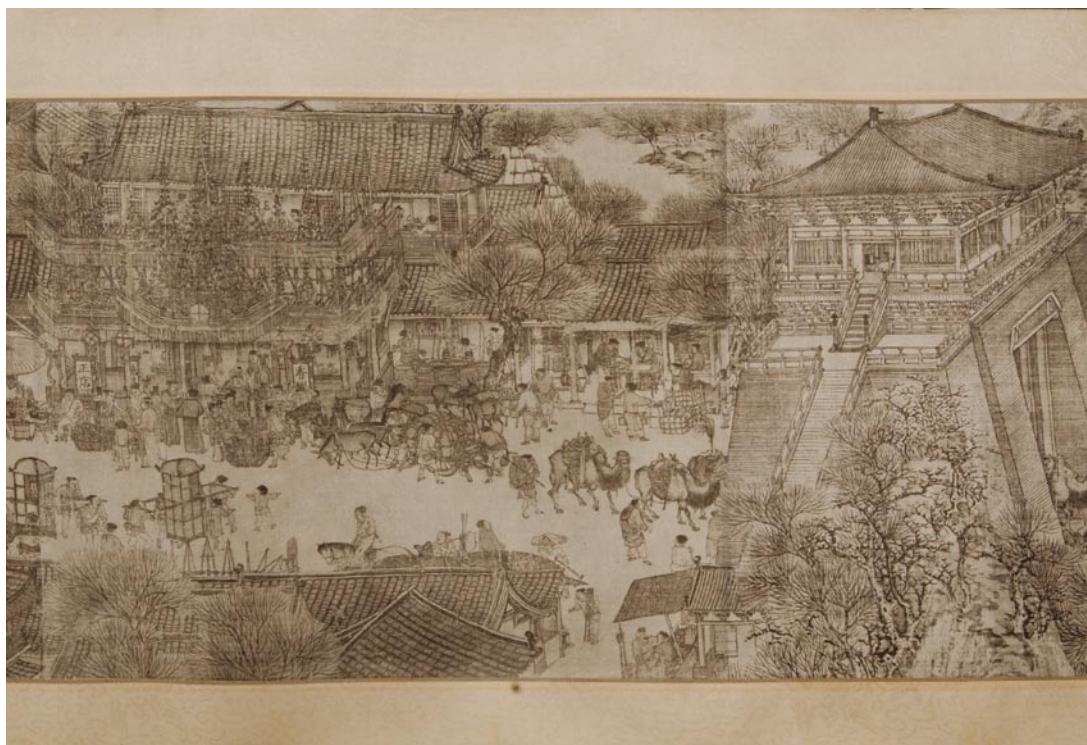
1-1 大唐西域記 (唐)玄奘 (唐)辯機
知恩院旧蔵 明末



1-2 清明上河図 張叔端繪 (影印) 中国歴代名画集編輯委員会編
人民美術出版社 1981年 (右頁につづく)



1-3 至治新刊全相平話三國志（影印）



1-2 清明上河圖 張昞端繪（影印） 中国歴代名画集編輯委員会編
人民美術出版社 1981年 （左頁につづく）

梁山灤上尋

是時鄆城縣官司得知帖巡檢王成領大兵弓手前去宋公莊上捉宋江爭奈宋江已走在屋後九天玄女廟裏彈了那王成根捕不獲只將宋江的父親拏去宋江見官兵已退走出廟來拜謝玄女娘娘則見香案上一聲響亮打一看時有一卷文書在上宋江纔展開看了認得是箇天書又寫著三十六箇姓名又題著四句道

卷四

破國因山木
一朝充將領

兵刀用水工
海內聳威風

宋江讀了口中不說心下思量這四句分明是說了我裏姓名又把開天書一卷仔細看覷見有三十六將的姓名那三十六人道箇甚底

混江龍李海

九紋龍史進

入雲龍公孫勝

浪裏白條張順

霹靂火秦明

活閻羅阮小七

豹子頭林冲

黑旋風李逵

小旋風柴進

金鎬手徐寧

撲天鵬李應

赤髮鬼劉唐

一撞直董平

插翅虎雷橫

美髯公朱同

神行太保戴宗

賽關索王雄

病尉遲孫立

小
李
廣
花

沒羽箭張青

沒遮欄穆橫

浪子燕青

花和尚魯智

行者武松

鐵鞭呼延綽

急先鋒索超

拚命三郎石秀

火船工張岑

摸著雲杜干

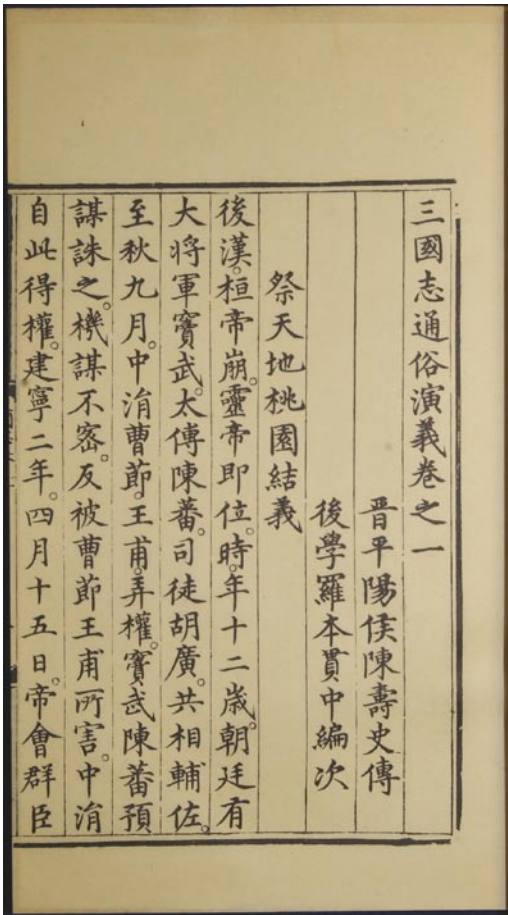
鐵天王晁蓋

宋江看了人名末後有一行字寫道天書付天罡院三十六員猛將使呼保義宋江爲帥廣行忠義殄滅姦邪宋江看了

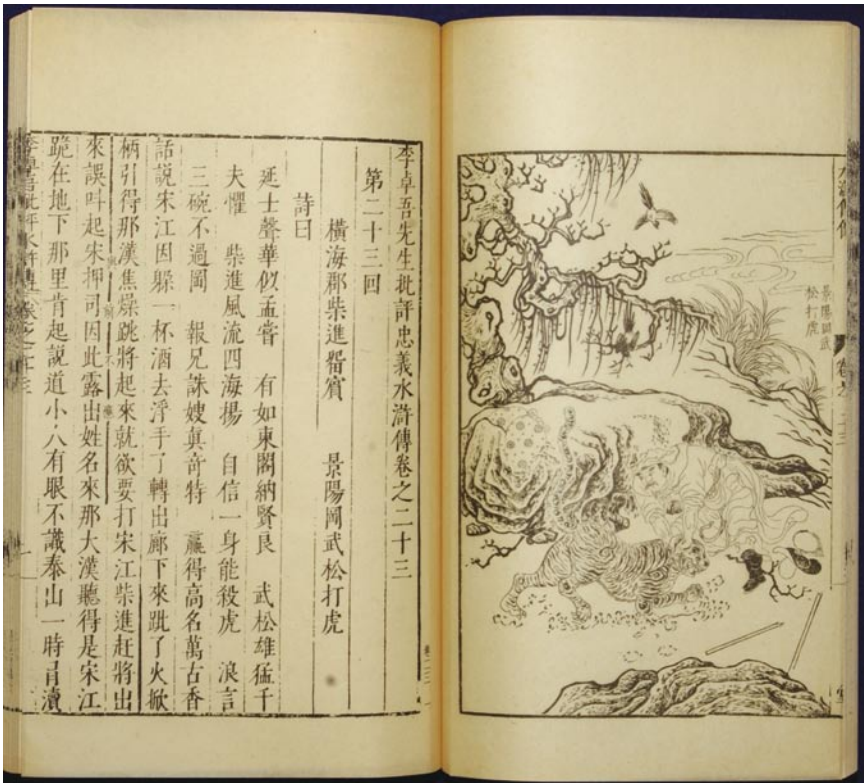
1-4 新刊宣和遺事 (影印)
上海古籍出版 1994 年



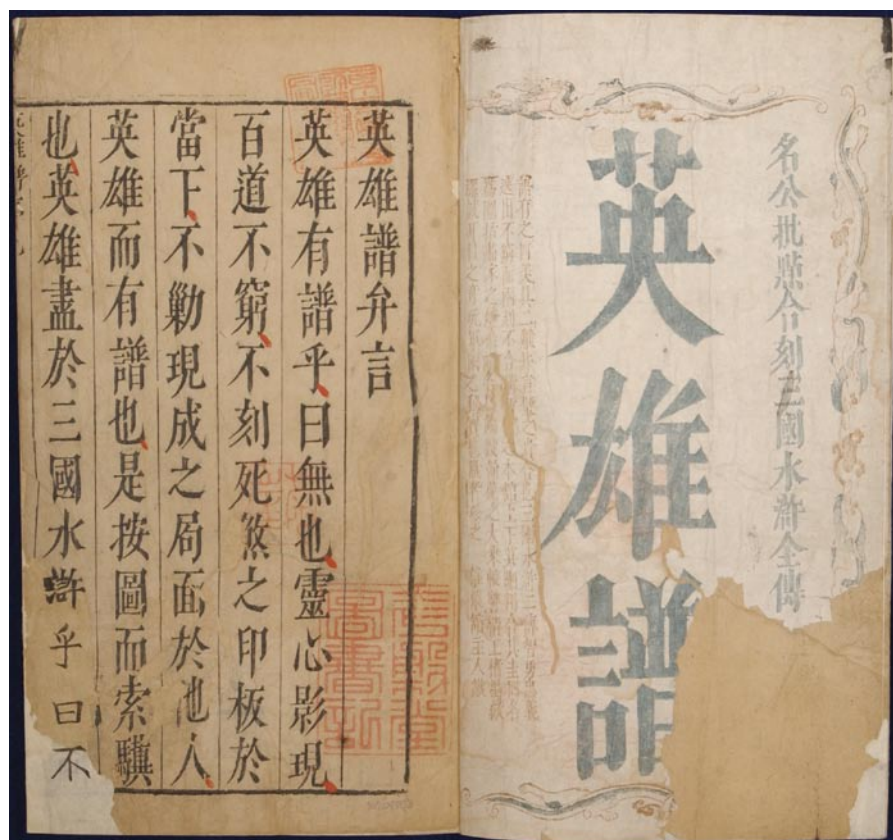
1-5 元曲選（梁山泊李逵負荊雜劇） 臧懋循撰 雕蟲館校訂（影印）
商務印書館 1918 年



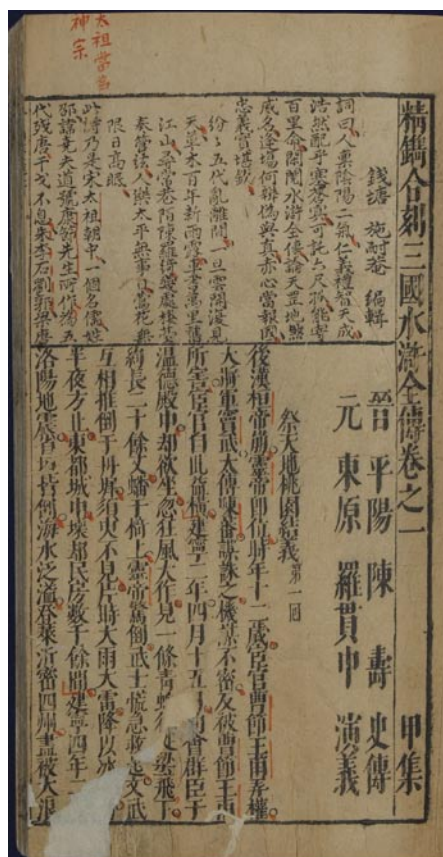
1-6 三国志通俗演義 羅貫中（影印）
人民文学出版社 1974 年



1-7 水滸伝 容与堂本 施耐庵、羅貫中（影印）
中華書局 1966 年

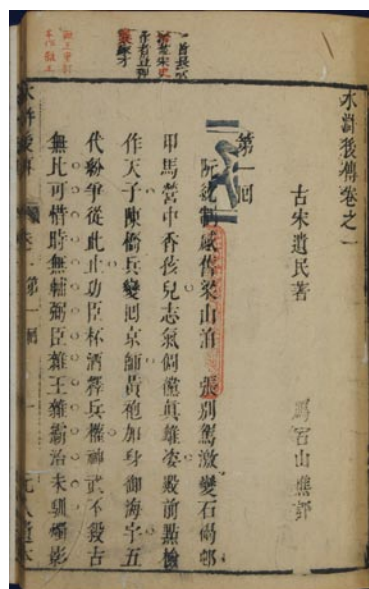


a 封面



b 卷首

上段に水滸伝が下段に三国志が配されている



1-9 水滸後傳 (明) 陳忱
万曆 36 (1608) 年



1-10 增像全圖加批西遊記 (清) 陳士斌
天寶書局 宣統 3 (1911) 年



1-11 明陳洪綬水滸葉子 陳洪綬畫 (影印)
上海人民美術出版社 1979 年

第2部 日本での受容

江戸時代には、三国志を語る講釈師や水滸伝を演じる劇団が中国から日本に来たわけではなかった。本だけが日本に来た。限られた語学力や中国情報では書かれていることがすべて読めたわけではなく邦訳には誤訳も多かった。そうした訳本が明治、大正、昭和前期まで読み継がれ、日本での中国像の形成に大きな影響を与えた。

日本における『水滸伝』の受容史を跡づけた高島俊男『水滸伝と日本人』(大修館書店、1991)には、中国の小説が原書、和刻、翻訳、翻案という四つの段階を通して日本で受容されたことを論じている。以下『三国志』『西遊記』も含め、その受容史を概観する。

1 原書の到来と和刻本の出版

三大奇書がいつごろ日本に入ったのか、大庭脩『江戸時代における唐船持渡書の研究』(関西大学東西学術研究所、1967)が各地に点在する資料を駆使し渡来本を整理するが、早期の資料は乏しく正確なことは不詳である。高価で部数も少ないため、複本が作成され日本人が中国語を読むための「返り点」「送りがな」が付けられた。日本で刻された中国の書物を「和刻本」という。

2 翻訳本の出版と辞書の隆盛

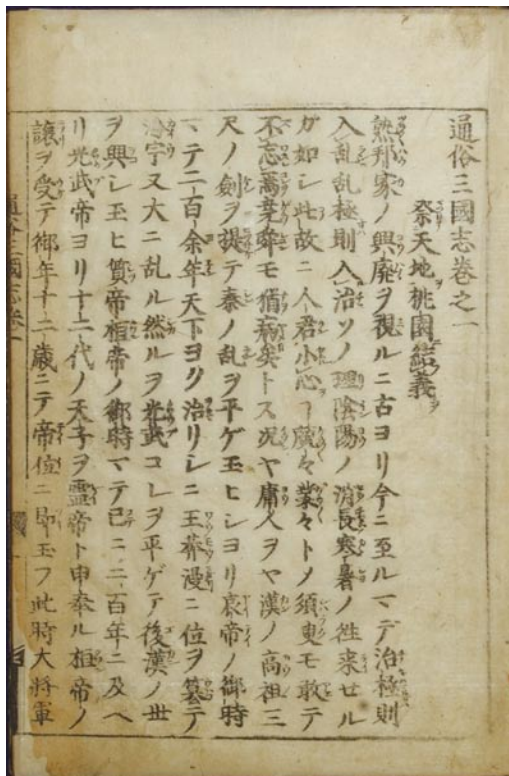
漢字だけで書かれたものを仮名を用いて、書き下し文で翻訳する。当時は「翻訳」とは言わず「通俗」と言った。「通俗する」という動詞である。現代語の「邦訳」にあたる。最も早い通俗本は元禄年間に刊行された『通俗三国志』で、50年以上遅れて『通俗忠義水滸伝』『通俗西遊記』がほぼ同時期に出た。また作品中の主要語句や難解語句を解釈した辞書も作られ、陶山南涛が編訳した『忠義水滸伝解』が有名である。現在は『唐話辞書類集』(汲古書院)に影印され、江戸時代の唐話学の隆盛を伝える。

3 絵本本の出版と図像の隆盛

通俗本に挿絵を付けたものが「絵本本」である。『新編水滸画伝』と『絵本西遊記』がほぼ同時期に出て『絵本三国志』は30年ほど遅れて出版され、『演義三国志図鑑』として挿絵だけまとめられている。この挿絵が文政年間になると国芳による『通俗水滸伝豪傑百八人之一個』という彩色豊かな武者絵を産み、現在は東北の夏を彩る弘前ねぷたまつりの武者絵に受け継がれている。

4 翻案本の出版

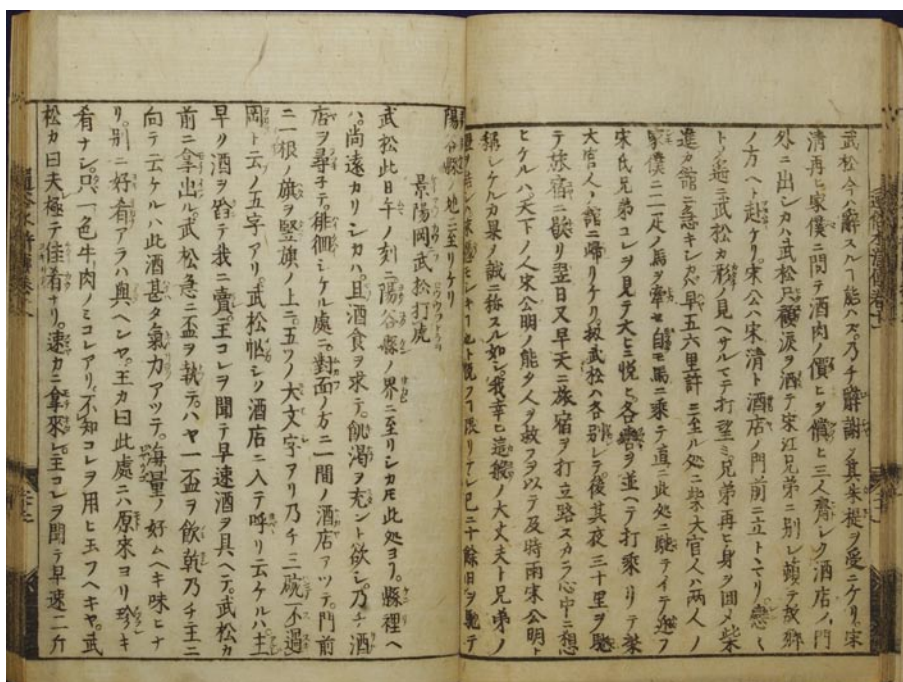
中国の物語を日本風に改めたものが「翻案本」である。最も早い翻案本に『水滸伝』の『湘中八雄伝』があり、『西遊記』には50年ほど遅れて『金比羅船利生纜』があり、『三国志』には更に30年ほど遅れた『英傑三国誌伝』がある。一方、芳名にあやかろうという意図か、原題を取り入れた『本朝三国志』『稗史水滸伝』があり、明治に入ると『筑波水滸伝』も作られた。ひとつの作品を下敷きにして行う模倣や創作だけでなく、『南総里見八犬伝』は『水滸伝』の翻案と言われてきたが、近年『三国志』の影響も指摘されている。



貸本屋の印

2-1 通俗三国志 文山訳
吉田三郎兵衛
元禄2(1689)年～元禄5(1692)年

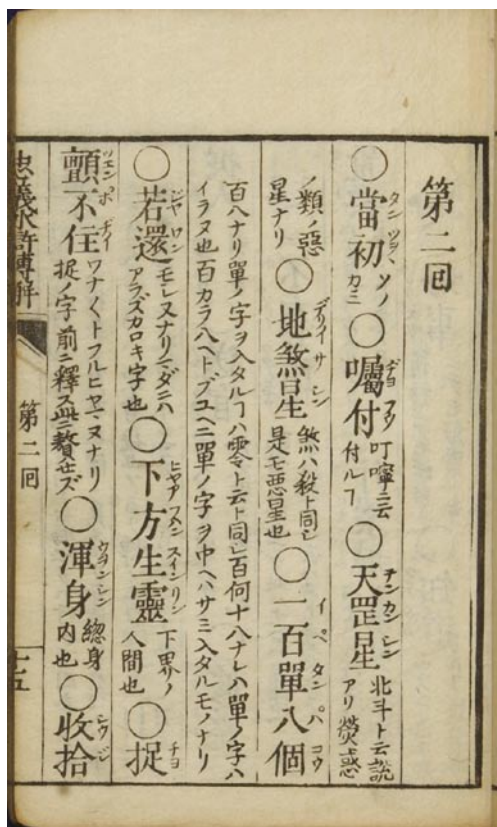
『通俗三国志』の出版は『通俗忠義水滸伝』『通俗西遊記』より50年以上早かった。なぜ早かったのか、なによりことばの問題であった。『三国志』は伝統漢文に近く、本だけの渡来でも従来の知識で読解できた。これに対し『水滸伝』『西遊記』は白話要素が多く、日本人にとっては難しく、訳本の作成に時間を要したと考えられる。『通俗忠義水滸伝』は最終巻が刊行するまで34年要し、『通俗西遊記』は最終巻刊行まで70余年、しかも完訳はなされていない。全51冊の『通俗三国志』がわずか3年で刊行されたことと比べると同じ受容ではあるが、一気呵成の翻訳と長期戦の翻訳とでは様相が異なった。



2-2 通俗忠義水滸伝 岡島冠山編訳 拾遺は云 用道人補
植村藤右衛門他 宝暦7(1757)年～寛政2(1790)年



2-3 忠義水滸傳解 陶山南涛
秦理兵衛他 宝暦7(1757)年



(右頁) →

『新編水滸画伝』は馬琴が文を、北斎が絵を担当した。挿絵は馬琴が構図を決めて下絵を描き、絵師の北斎が仕上げたようだ。いくら下絵といえ、行ったことも見たこともない中国の風物を絵にすることは、漢字で書かれたものを上下させて日本語に置き換えるのと違い、格段に難しい。はるか古代の論語の世界なら描かれた図像もあったのであろうが、宋代を舞台とする『水滸伝』の挿絵創作の労苦は思いやられる。『新編水滸画伝』の人物画は出色であるが、家屋の構造などには奇妙なものが少なくない。中国情報の乏しかった当時の限界であった。しかし文化の受容という点から見ると、いくら奇妙であっても挿絵の存在は大きく、小説の挿絵が描けるということは文化水準の高まりを示すと思われる。

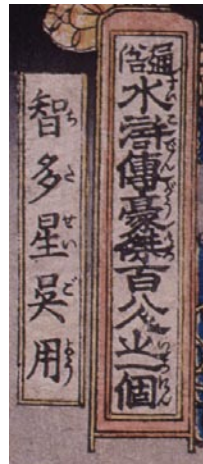
『解』とあっても翻訳ではなく辞典である



2-4 演義三国志図鑑 国会新聞社 1961年
『絵本通俗三国志』中の葛飾戴斗(標題紙その他には葛飾北斎筆とあり)
の挿絵を中心として編纂したもの

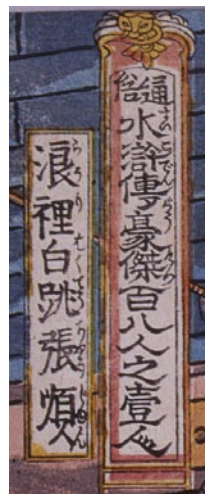


2-5 新編水滸画伝
初編は曲亭馬琴作 2編以下は高井蘭山録
画は各編とも葛飾北斎 角丸屋甚助他
文化2(1805)年~天保年間(1830~1844)



← (左図)
2-図1 通俗水滸傳豪傑百八之個 智多星呉用
歌川国芳画 大判錦絵
文政10(1827)年頃
国立歴史民俗博物館所蔵

(右図)→
2-図2 通俗水滸傳豪傑百八之壺人 浪裡白跳張順
歌川国芳画 大判錦絵
文政後期/1826-1830
国立歴史民俗博物館所蔵



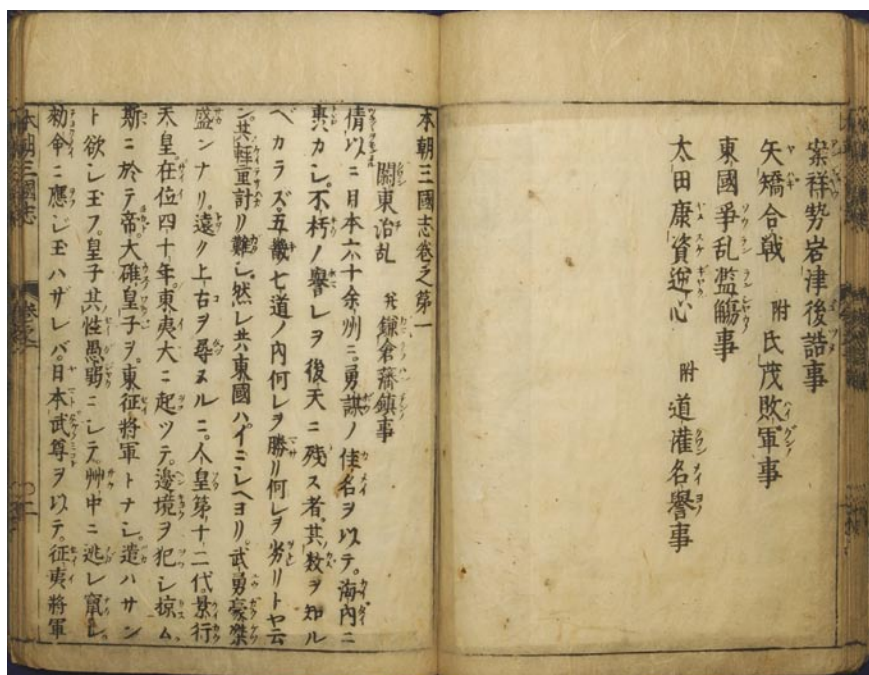
もともと浮世を描く風俗画として生まれた浮世絵は、美人画や役者絵が主であったが、北斎や広重に代表される風景画と国芳に代表される武者絵が新しいジャンルとして注目された。とりわけ、国芳が描く呉用・史進・武松・李逵・魯智深は大評判となり5人以外の豪傑の絵も順次作成印刷され、一時中断していた『新編水滸画伝』の刊行が馬琴から高井蘭山に引き継がれ再開されたほど、水滸伝ブームを引き起こした。



2-図3 三国志 関羽奮戦の図（鏡絵）
2003年弘前ねぷたまつり
佐山敬悦撮影



2-図4 水滸伝 一丈青血戦之図（鏡絵）
2000年弘前ねぷたまつり
佐山敬悦撮影



2-7 本朝三國志
山岡四郎兵衛他 宝永6(1709)年

(右頁) →

よみほんすいこでん かながきすいこでん
稗史水滸伝・国字水滸伝

『忠義水滸伝』を抄訳し20編80巻40冊で刊行された合巻。

水滸伝を絵本としたものとしては、安永6(1777)年に刊行された鳥山石燕の『水滸画潜覧』がおそらく最初のものでされているが、山東京伝の黄表紙『梁山一步談』(『天剛垂楊柳』(画工は北尾重政、ともに寛政4(1792)年刊)も早い時期の出版である。本書は、この京伝の絵本水滸伝を嗣ぐ新編として企画され、京伝の弟の京山が起用されて、文政12(1829)年に『稗史水滸伝』という題で6編まで刊行された。これについては、初編から6編までの見返しに「寛政壬子の春、京伝翁、絵本水滸伝を再訳して大に世に行わる故、今、旧編を補い、画作筆を異にして新編となす。主顧諸賢一覽を下して好評を賜ば幸甚々」と、その刊行の事情が書かれている。

しかし、京山の訳文に日本の俗語が多く『水滸伝』らしくない、ということで不評だったため、7編から種彦に変わり、書名も『国字水滸伝』と変更された(7編の刊行は天保元(1830)年)。しかし、種彦も病気がちだったことや『偽紫田舎源氏』が好評で多忙だったこともあって、訳者は10編から門弟の笠亭仙果に代わり(13編のみ種彦の訳)、さらに18編以降は松亭金水に代わる、という複雑な変遷をとげている。最後の20編が刊行されたのは嘉永4(1851)年で、百回本の第三十五回までを刊行したところで中絶した。

板元も、文政12年に初編から6編まで刊行した時には、仙鶴堂鶴屋喜右衛門以下の6軒が合同して各軒がそれぞれ1編ずつを刊行し、その後も毎年6編ずつ刊行する計画であったが、種彦の病気等もあって計画も変更になり、また板元の出入りもあって、訳者同様複雑な変遷があった。

なお、画工として一貫して起用された歌川国芳は、文政10(1827)年ころ、『通俗水滸伝豪傑百八人之一個』と題する錦絵のシリーズを出して大評判になり、水滸伝の豪傑のイメージを強烈に印象づけたが、本書も作者や板元の変遷にも関わらず、長期にわたって板行されたのは、水滸伝の人気とともに、この国芳の絵を中心とする絵本としての人気にあやかろうとした企画でもあったからであるといえよう。(篠塚富士男)



a 初編
書名は「稗史」とある



b 7編
書名は「国字」と変わっている

- 2-8 稗史水滸伝
国字水滸伝
6編までの書名：稗史水滸伝 7編以降の書名：国字水滸伝
作者：初-6編：山東京山 7-9、13編：柳亭種彦
10-12、14-17編：笠亭仙果 18編：松亭金水
11、12、14編の校訂者：柳亭種彦
画はすべて歌川国芳
文政12(1829)年～嘉永4(1851)年



2-9 金比羅船利生纜
 曲亭馬琴作 溪斎英泉画
 和泉屋市兵衛 文政7(1824)年~天保2(1831)年

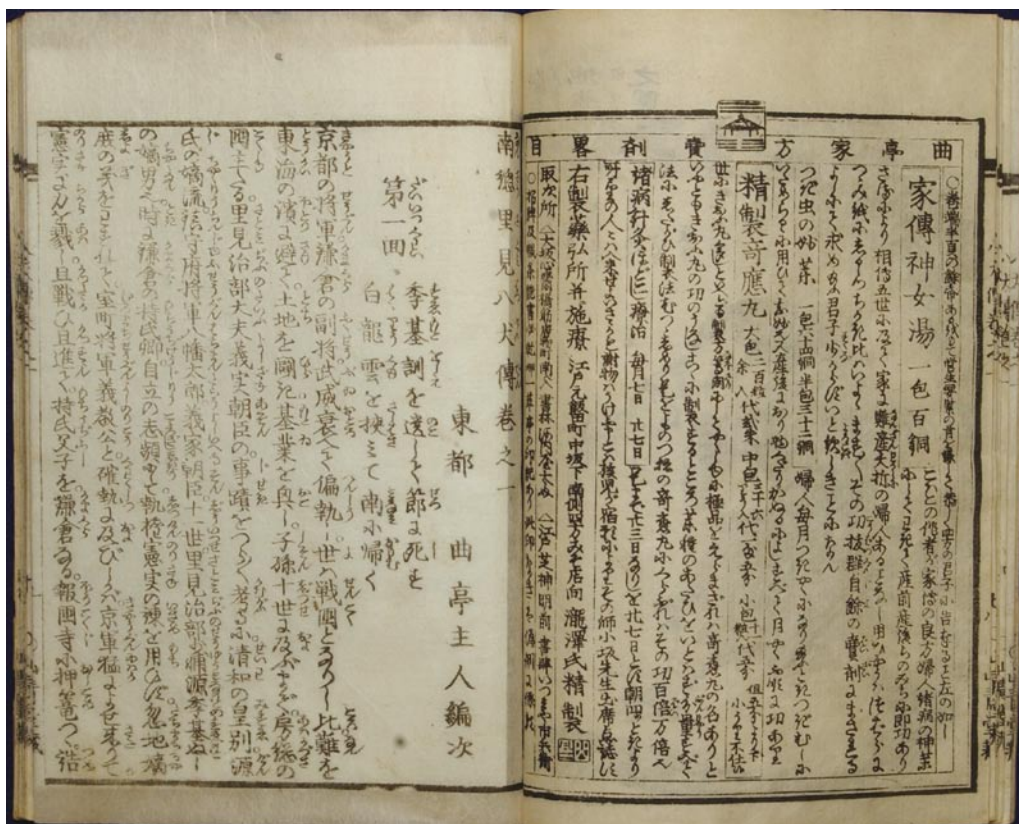
(上図) ↑
 こんびらぶねりしょうのともづな
金比羅船利生纜

合巻。『西遊記』を翻案したもの。中国小説翻案による馬琴の長編合巻の最初の作品。天竺の金比羅神王を迎えようとする浄蔵法師の西域行の話であるが、玄奘三蔵が浄蔵、孫悟空が岩拆の迦毘羅坊、猪八戒が羽八戒、沙悟浄が沙和尚などとあてられている。

(右頁) →
 なんそうさとみはつけんでん
南総里見八大伝

読本。馬琴の代表作である。その構想は『水滸伝』に得ているのは間違いないが、『三国志』からも多くの場面を取り入れている。また膨大な和漢の文献に通じていた馬琴のこともあり、様々な文献を参考にしつつ、壮大な物語を作り上げている。展示品は、第一輯から第六輯までの紙製原帙に、「文溪堂」の文字が見られるが、文溪堂とは丁子屋平兵衛のことであり、丁子屋平兵衛が全版權を取得したのは天保3(1832)年のことであるので、天保3年以降の後刷本であることがわかる。

(ともに篠塚富士男)



2-10 南総里見八犬伝 曲亭馬琴作 柳川重信他画
山崎平八、美濃屋甚三郎、丁子屋平兵衛
文化11(1814)年~天保13(1842)年



2-11 英傑三国誌伝 秋草庵著 梅窓園（歌川貞芳）画
山口屋藤兵衛他（嘉永3（1850）年刊か）

英傑三国誌伝

絵本。展示品は1冊のみであるが、古典籍総合目録データベース（国文学研究資料館）によれば、別称として『画本三国誌伝』（初集）、『英傑続三国誌伝』（二集）がある。3冊本で、嘉永3（1850）年の刊行という。山口屋藤兵衛、藤岡屋慶治郎他の出版。弘化5（1848）年の序がある。

内容としては、豊臣秀吉に関連のある人物の簡略な事績を記し三国志の人物に比する、という形式で叙述するもので、展示品には、加藤清正以下、25人の人物が、関連する絵とともに記されている。

たとえば、加藤清正の部分は「加藤肥後守清正大織冠鎌足の苗裔、左大臣魚名、利仁將軍の後胤。尾州愛知郡中村、鍛冶屋五郎助が子。始虎之介、後主計頭。十三歳より秀吉に仕え、織田信長、浅井朝倉と合戦の時、敦賀表退口に初陣にてひるいなき働きをなし、賤ヶ岳七本鎗の随一、(略)智仁勇兼備の将、一代の戦功あげてかぞえがたし。忠義鉄石のごとし。実に豊臣家の柱石也。没後神と祭られ名を万天にあげ、誉を後代に貽すこと、蜀の五虎將軍関羽に彷彿たり。」と記され、関羽に比されている。

同様に、福島正則は張飛、片桐且元は趙雲、脇坂安治は黄忠等、25人中24人までが蜀の人物に比されているが、例外は石田三成で次のように記されている。「石田治部少輔三成ひとり五奉行の一個。児性立より秀吉に給仕し、佐吉と称す。美童ゆえ寵愛を蒙り、させる功なしといえども大祿を領し、奸佞巨毒を懐き、太閤御他界の後、驕慢の心を起し、謀反を企、青野が原に骸を曝し、臭名を末世までに伝う。董卓に擬う。」とあり、ただ一人悪者になっているのも興味深い。

（篠塚富士男）



2-12 筑波水滸伝 菊亭静（高瀬真卿）
今古堂等 明治17（1884）年

つくばすいこでん
筑波水滸伝

本書は、幕末の水戸藩士藤田小四郎ら尊皇攘夷派による筑波山での挙兵（筑波山事件、なおこの一連の事件を天狗党の乱と呼ぶ）を中心に記述した一種の軍記物である。

展示品は中・下の2冊であるが、上巻に記されている序（筑波水滸伝第一編叙）には、安政6（1859）年9月から慶応元（1865）年11月までを対象とするとし、「是れ必^{ひつきょうはいかんしょうせつ} 竟稗官小説に類すと雖も、事は皆な実にして敢て飾る所多からず。然れども、記者聊か思う所なきにあらねば、彼の忠義水滸伝の縁によりて、則ち筑波水滸伝と題すになん、筑波嶺^{みどり おもかげ}の翠の峴ながく止めて、北国の雪の清きあとを知らせんと思えばなり。」とあり、筑波水滸伝と名づけた由来が示されている。しかし、下巻の最後には「本書は題するに筑波を以てしぬれば、水戸の戦争の如きは宜く別に録す可きに似たれど、^{こと} 緯皆筑波の挙に連続して相離れざる物語たるにより、更に続筑波水滸伝と題して他日稿を起す可う思ふ^{のみ} 而已。」と記され、第2編、第3編を書きつぐ構想が示されている。

実際に、本書（第1編）は、安政5（1858）年の秋に、真影という山伏が筑波山の奥の院で、「近ごろ崩御ましましける帝」（孝明天皇を指したものか）や三条実万、高山彦九郎、蒲生君平、吉田寅二郎（吉田松陰）等が「皆天狗と成り玉いて徳川を亡す可き御評議」をしている場面の夢を見、勤皇の士が筑波に立てこもることになる、という未来記を聞くという場面から始まり、元治元（1864）年7月の下妻の合戦、および田中源蔵が土浦城を攻めた顛末までが記されている。すなわち（第1編）巻末に記すように、8月の水戸城下での戦いや、それ以後の同年9月の那珂湊周辺の戦い、12月の天狗党西上隊の加賀藩への投降、慶応元（1865）年2月の武田耕雲斎・藤田小四郎等の処刑といった天狗党関係の重要な事件は扱われておらず、まさに筑波山事件を中心としたものとなっている。（篠塚富士男）

第3部 子どもから大人まで

20世紀の初め、アメリカではライト兄弟が人類初の飛行に成功し、前世紀末に誕生した映画が飛躍的な発展をとげたころ、中国では辛亥革命が起こり清朝が倒れ中華民国が成立した。日本は明治から大正への移行期にあたり、江戸時代とは異なる日中の文化交流が見られた。中国では新しい出版形態である連環画が三大奇書を題材に誕生し、その後アニメが作られ、近年は長編テレビドラマが制作されている。日本では野村胡堂が『水滸伝』の人物をモデルに銭形平次を作り、吉川英治が『三国志』に独自の世界を創出し、エノケンこと榎本健一が「エノケンの孫悟空」で『西遊記』解釈に新たな境地を切り開いた。今日の映画、テレビ、マンガ、ゲームなど様々なメディアに見られる受容につながっている。

1 中国「連環画」の誕生

これまで小説の挿絵は登場人物や名場面のいくつかが巻頭や各回の初めに描かれるに過ぎなかった。文があり、絵は添え物であった。これに対して、物語の展開を文章ではなく多くの絵で表そうとした絵本が民国期に現れた。しかもその題材には、広く大衆に親しまれていた『三国志』『水滸伝』『西遊記』など5作品が選ばれ、1枚にひとつの絵が描かれ、それらの絵が互いにつながっているという意味で「連環図画」と名が付けられた。

上海世界書局から1927年に出版された『連環図画三国志』が最初の出版とされている。元代の作といわれる『全相平話三国志』は「上絵下文」であったが、民国期の連環図画は上下を逆にした「上文下絵」形式をとっている。文と絵が占める割合からも下に位置するほうに重きが置かれていることがわかる。この画期的な絵本の出版は、識字教育が遅れ識字率も低かった当時の中国では、まさに子どもから大人まで多くの人に読まれた。

共和国になると「連環図画」から「連環画」が一般的な呼称となり、装丁も糸綴じから洋装に変わり、文と絵の関係も上下から枠の内外へと（しかも文は縦書きから横書きに）変化した。3作品は装いを新たに『三国志』は『三国演義』という名で上海人民美術出版社から全60冊、『水滸伝』は朝花美術出版社から全26冊、『西遊記』も河北人民美術出版社から全26冊という揃いものが50年代に出版された。現代を題材とする作品の出版が大勢であった当時でも、これらの3作は根強い人気を持っていた。中央公論社から3作の邦訳『画本』が刊行されたが、その原本には上記の『三国演義』と『水滸伝』が用いられている。『西遊記』は本学図書館蔵本（香港美麗美術出版社）と同じ版が原本になっている。文章は簡潔で、絵は細部にまで精緻に描かれている。

こうした伝統のなか新しい映画の技法を活かしたアニメーションが登場する。1941年『西遊記』の「鉄扇公主」の物語が萬監督によりアニメとなり、翌年日本で『西遊記』の題で上映され、当時14歳であった手塚治虫はインスピレーションを受けたと回想している。アトムを初めとする手塚アニメのルーツには、ディズニーだけでなく、中国アニメの影響もあったことが近年注目を集めている。

連環画やアニメだけでなく、1958年と出版は遅れるが、張光宇作の『西遊漫記』という60枚の彩色連環画（自序では「連続漫画」とある）がある。西遊記のスタイルをとるが、当時の国民党政府を風刺する。子どもから大人まで幅広く読まれる作品であるからこそ、中国ではその折々の政治に三大奇書が現れることが多い。



a 表紙



b 猪八戒を収める

3-1 連環圖畫西遊記 金少梅、章興瑞
上海世界書局 民国18(1929)年



3-2 新版水滸伝連環圖 景陽岡打虎 潘飛鷹
香港美麗美術出版社 1964年



3-3 西遊漫記 張光宇
人民美術出版社 1958年

2 『三国志』 — 吉川英治による再構成

日本では昭和の初め「大衆文学」「大衆文芸」ということばが生まれた。前者の体现者が吉川英治であり、後者はエノケンといえるであろう。青梅市にある吉川英治記念館にはぼろぼろになった帝国文庫版の『通俗三国志』が保存されている。幼いころから読み親しんだ三国志を現代によみがえらせ、従軍記者として中国での体験をうちに込め、1939年に『三国志』の連載が始まった。当時は朝日新聞に『宮本武蔵』を、読売新聞に『新書太閤記』を連載していた時期で、全盛期といわれている。江戸から読みつがれた『三国志』を現代日本人に納得のゆく物語に再構成したところに、大衆文学作家として吉川英治の真骨頂がうかがえる。読物としてだけでなく吉川『三国志』は現在では横山光輝が描くマンガ『三国志』の原作にもなっている。1972年に始まった横山光輝の連載は15年続き、全60冊の偉業を誇っている。アニメ化もなされ、マンガもアニメも中国語版があり、原作とは趣を異とする吉川英治の世界と連環画とはタッチの異なる横山光輝の図像が中国語圏で受け入れられる主たる要因であろう。

吉川『三国志』が刊行された1946年以降、50年代には『三国志』の忠実で実直な全訳が小川環樹や立間祥介訳として刊行され、学問的価値は大いに顕彰されるものではあるが、面白さからいえば吉川『三国志』といわれている。80年代には人形劇やゲームに、90年代にはスーパー歌舞伎に『三国志』が登場する。これらの作品が忠実な翻訳は参照するにしても、吉川『三国志』に依拠する理由も理解できよう。

吉川『三国志』の連載が始まったころ少年少女向けの読物として、野村愛生の『三国志物語』が出版され、戦後も世界名作物語や世界名作全集のひとつとして読み継がれ、名著の誉れも高い。また昨今は下火になったが、ビジネスマンにもてはやされた三国志ブームもあった。権謀術数や人心収攬のすべを三国志から読み取ろうという風潮であった。ここでも『三国志』が子どもから大人まで読まれたことが見て取れよう。

3 『水滸伝』 — 銭形平次のルーツ

日本の大衆文学の一ジャンルである「捕物帳」は1917年岡本綺堂の『半七捕物帳』に始まり、28年佐々木味津三の『右門捕物帖』を経て、31年野村胡堂の『銭形平次捕物控』で確立された。31年文芸春秋社から創刊された『オール読物』に連載を始め、映画やテレビや舞台の原作となった銭形平次作品は、擱筆まで長短計三百編を越えた。野村胡堂は1957年に「筆を折るの弁」と副題をつけた「平次と生きた二十七年」を発表し平次のモデルが『水滸伝』にあったことを次のように述べている。

銭形が銭を^{ほう}投るということは水滸伝から暗示を受けた。水滸伝の^{ぼつうせんちようせい}没羽箭張清が錦の袋から^{つぶて}礮を出して投るということから銭形平次の投銭を考え出した。

「没羽箭」とは羽のない矢の意味で「小石」である。人を殺傷する刀や弓などの武器と異なり、当たったからといって命を落とすことはない。しかし事件のクライマックスではなくてはならない飛び道具なのである。銭形平次では小石を銭に変えたが、不殺生主義の平次にはうってつけの武器であったのであろう。「銭が飛ばないと面白くない」というお叱りを胡堂は楽しげに紹介している。

投銭には決まったスタイルはなく、張清を描いた中国の人物絵の多くは右手を挙げて投げおえた姿をとるが、北斎の張清像は、従来批判の多い過度のデフォルメを抑えつつ、躍動感があり、彩色も施された名品と言えよう。

『水滸伝』という全体がアウトローのイメージが強く、確かにそれを意図した物語や人物画が多いが、個々の人物からは全体とは違う要素も読み取れる。平次の前には馬琴が創り出した八丁礫の喜平次（椿説弓張月）がいたことも思い起こされる。

連載開始から8年、書下ろし九篇を加え百話とし『銭形平次捕物百話』全9巻が中央公論社から刊行された。戦後は1958年には決定版『銭形平次捕物全集』全26冊が河出書房新社から刊行された。

なお『水滸伝』も、時代は下るが1960年代に吉川英治が『新・水滸伝』の執筆に取り組んだ。『三国志』と同じく、忠実で実直な全訳『水滸伝』も戦後直後から50年代にかけ、吉川幸次郎、駒田信二、村上知行訳が出て、吉川『水滸伝』に先立ったが、読みやすさと面白さでは吉川ファンが多い。作品は未完の遺作となったが分量もあり、横山光輝は吉川本をもとにマンガ『水滸伝』を描き好評を博した。この自信が大作『三国志』を生んだといわれている。



3-4 銭形平次捕物百話 野村胡堂
中央公論社 昭和13(1938)年

4『西遊記』—エノケンの舞台と映画

上記2作と違い『西遊記』は早くから子ども向けや大衆向けに改編された。20世紀初め「童話」ということばが生まれると大正15(1926)年には『支那童話児童西遊記』が出版され、昭和の初め、広義の「大衆文学」という概念が現れると『世界大衆文学全集』の1冊として、昭和6(1931)年弓館小鰐訳『西遊記』が出版された。

また明治から関西を中心に広く読まれた立川文庫では『孫悟空』と『三蔵法師』が2分冊として収められ、猿飛佐助について次のような言及がある。

猿飛佐助と孫悟空との関係はだれでも思いつくが、文庫と『西遊記』とを仔細に読みくらべれば、その関係はいよいよ濃厚となる。極論すれば、『西遊記』がなければ猿飛佐助は生まれなかったかもしれない。

(足立巻一「立川文庫誕生の背景」1974年、講談社『解説立川文庫』)

日本古来の忍術に中国伝来の孫悟空が加わり誕生したのが猿飛佐助という興味深い論である。この猿飛佐助と孫悟空を両者を演じた役者がいる。エノケンである。『エノケンの猿飛佐助』2巻が1937年と翌年に岡田敬が監督し、『エノケンの孫悟空』が40年に山本嘉次郎が監督脚本を担当して制作された。カッパが登場する日本式『西遊記』作品である。映画の技術を存分に活用し、エノケン演じる孫悟空は空を飛び、変身し姿をくらます。円谷英二が特撮を担当している。原作の枠を打ち破った作品である。

エノケン映画は、67年の手塚アニメ『悟空の大冒険』、77年の人形劇『飛べ！孫悟空』さらには88年のマンガ『ドラゴンボール』の嚆矢とも考えられる。エノケン映画に比肩する作品は、三蔵法師に夏目雅子を起用した日本テレビのドラマであろう。

太田辰夫・鳥居久靖が共訳した忠実で厳密な全訳が刊行されたのは、前2作同様50年代であった。近年は、より原本に近い版本による翻訳が小野忍訳を引継ぎ、中野美代子が翻訳を完成している。学問的な研究も大きく進展し、子どもから大人まで、コミックからアカデミックまで親しまれている。

第4部 ブタとカッパと青龍刀

翻訳とは異文化理解であり、時として誤訳や創作が見られる。『西遊記』から「ブタ」と「カッパ」を例に、『三国志』と『水滸伝』からは「青龍刀」を例に、誤訳が思わぬ創作を生み出すこと、誤訳が広く認められてしまうことを見てみたい。

三大奇書の受容の歴史に見られた誤訳や創作を述べる。

1 日本人は猪八戒をイノシシと誤訳した

ブタの猪八戒は、宝暦8年(1858)刊行の『通俗西遊記』ではイノシシと訳されていた。「八戒」という名をまだもらっていないとき、経歴を述べている。

そのむかし てんじょう あり てんぽうげんすい しよく にん わう ぼえう ち くわい とし われ
其往昔は天上に在て、天蓬元帥の職を任ぜられしが、王母瑤池の会の時、我
えび じやうが たわぶ とが げかい おひくだ あやまつみのしし ほら
醉にまかせて嫦娥をとらへ戯れし科により、下界へ逐下され、錯て猪の腹に入
つひ とどま な ちがうれふ
り、遂に此山に止り、名を猪剛鬣といふものなり。

その後に50年ほど後に出された『絵本通俗西遊記』には挿絵があり、牙をもつ猪八戒が描かれている。『絵本西遊全伝』は明治16(1883)年の出版であるが、流沙河で沙悟浄と闘う猪八戒が描かれ、やはりイノシシである。そもそもブタとイノシシの先祖は同じで、野生のイノシシを家畜化したのがブタである。どちらでもよさそうだがイメージが違う。イノシシは猪突猛進のことばの通り、獐猛で力強い。『絵本西遊全伝』の挿絵では妖怪の沙悟浄に負けず恐ろしい。『絵本西遊記』は大正年間、有朋堂文庫として江戸の『絵本通俗西遊記』を翻字したものだが、依然としてイノシシである。

この誤訳は、同じ字を用いても日本と中国では漢字が表す意味が異なることに由来する。すでに江戸時代の西川如見『町人囊』巻三には次のように述べている。

猪 ぶたのことなり。日本にてはみのししといへり。誤なるべし。みのしし
は山猪さんちよといふもの也。十二支の亥みもぶたの事也。猪の字も誤なるべし。

こうした記述の存在は、日本では早くから「猪」をイノシシの意で使っていた証拠になるろう。

日本語のブタとイノシシには共通するものがない。一方中国語は、現代語であるが、ブタは「猪」で「家猪」ともいい、イノシシは「野猪」という。前者は「家の猪」であり、後者は「野の猪」であり、両者の関係は明瞭である。

猪八戒を「ブタの猪八戒」と正しく訳したのは、昭和6(1931)年改造社刊行の弓館小鰐訳『西遊記』である。

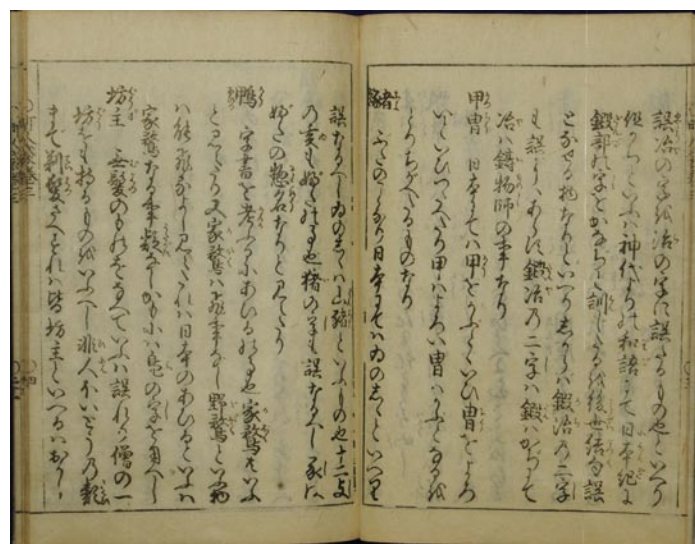


a 流沙河での闘い

4-1 絵本西遊全伝
法木書屋 明治16(1883)年



b 猪八戒を収める



4-2 町人囊 西川如見
英大助他 享保4(1719)年



a 河伯言 昭和 10(1935) 年



b 水戸浦のカッパ 昭和 12(1937) 年



c 白藤源太 昭和 12(1937) 年



4-3 孫悟空
大日本雄弁会講談社 昭和7(1932)年

2 カッパの沙悟浄は日本人が創作した

現在は「河童」^{かわらべ}と書いてカッパと読むのが普通だが、『改造』昭和2(1927)年3月号に発表された芥川龍之介の小説『河童』には「河童 どうか Kappa と発音して下さい」という一文がある。今日では当たり前と思われる読みがなぜ「読者への注意」となったのか。当時カッパを表す漢字に決まった表記がなかったため、あるいは今日と異なる表記が一般的であったためと考えられる。

牛久沼の湖畔に住居を構え、若いころから好んでカッパの絵を描いた小川芋銭が用いた漢字表記を見ると、明治末には「河伯」とあり、大正期には「水虎」を使い、「かはく」「すいこ」と読まれた可能性は残しつつも、「河童」という漢字で書かれたのは最晩年の昭和12(1937)年の作に見られるに過ぎない。仮名書きも古いことではない。

芥川龍之介の遺作となった『河童』は内容が高く評価されただけでなく「河童」という表記の定着に大きく与ったことが考えられる。こうした社会から『西遊記』に「河童」が登場した。

沙悟浄は、日本では「カッパの沙悟浄」となっている。しかし『西遊記』の故郷中国にはカッパはいない。沙悟浄のすむ「流沙河」は、原文では「砂が流れる河」を意味したが「さんずい」の影響からか、後世「砂」から「水」に変わった。砂の河に住む妖怪は、日本では連想できないが、水の河に住む妖怪なら日本にいる。カッパである。

文献では、昭和7(1932)年3月大日本雄弁会講談社刊行の『孫悟空』に、孫悟空と沙悟浄の次のようなやりとりがある。

怪「ああ暫くお待ち下さいまし、決して私は怪しい者ではございません。」

悟「怪しい者でないといつて、貴様^{きさま}のやうな風^{ふう}をして、怪しくないことがあるものか、一体貴様^{たい}は何ものだ……。」

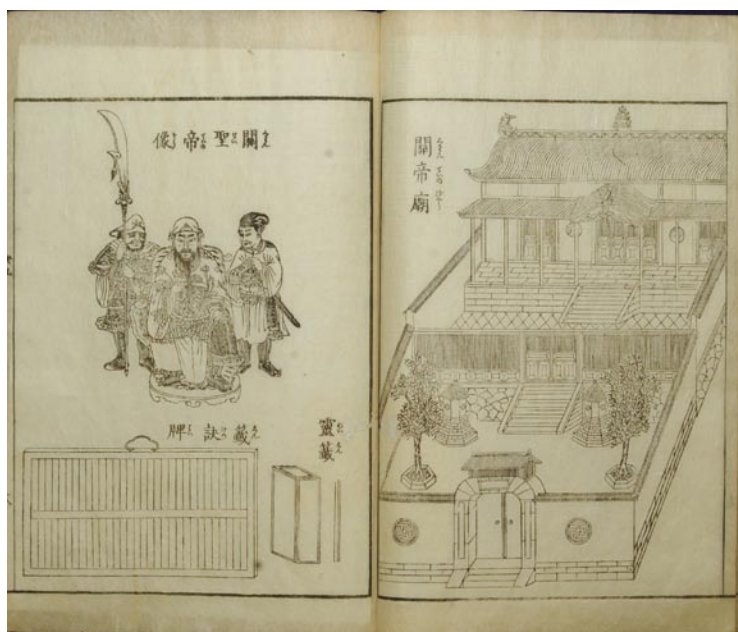
怪「へエ、わたし^{わたし}はカッパ^{かっぱ}でございます。」

悟「何だ、河童だ。河童なら水の中で胡瓜^{きうり}でも食^くってぬればいいのに、何しに出て来た。」

怪「へエ、私は沙悟浄と申す者(以下略)」

付された挿絵も明らかにカッパである。

同年10月富士屋書店から刊行された『西遊記孫悟空』(平林黒猿)にも、沙悟浄は河童として登場する。しかし「カッパの沙悟浄」がただちに定着したわけではなかった。定着に大きな役割を果たしたのが、映画『エノケンの孫悟空』ではなかろうか。山本嘉次郎が脚本と監督を担当し、昭和15(1940)年に封切られた。助監督に黒澤明、特撮に円谷英二を配し、高峰秀子、服部富子、李香蘭など豪華な出演者で大ヒット作となった。



4-5 清俗紀聞 中川忠英著 石崎融思他画
西宮太助 寛政 11 (1799) 年

3 青龍刀は日本人が転用した

『三国志』に登場する関羽は、死後神として祭られ、関帝廟が各地に建てられた。江戸時代の中国情報を伝える『清俗紀聞』には関帝廟の全景と本尊の関羽像が描かれている。関羽と言え、先ず連想されるのが美しい髯、美髯公^{びぜんこう}という美称がある。次が『三国志』第1回に出ている青龍偃月刀^{えんげつとう}であろう。青龍と偃月刀に分けられ、偃月刀とは三日月の形をした刀の意である。明代に編まれた『三才図会』には数多い武具のひとつに偃月刀が挙げられている。

『水滸伝』第89回には関羽の子孫として大刀関勝が登場する。「大刀」とは関羽伝来の青龍偃月刀^{つぶて}の俗称である。礮の名人・没羽箭張清^{ぼつうせん}と弓の名人・小李広花榮^{しょうりこう}とともに青龍刀を手にする関勝が描かれている。

ではなぜ「青龍」という名があるのか。刀の形状に依るといわれるが、青龍刀の図像には、口を開けている龍が描かれているものが多く、色についても「青」という字を意識したためか、彩色が施されている図像では刀身が青く塗られているものが見られる。

歌舞伎十八番のひとつ「関羽」を描いた豊国作『関羽の道行』は、押されている印から嘉永5(1852)年のものと知れるが、青い青龍刀を担ぎ、左手で美髯をしごいている関羽が力強い。しかし中国語の「青」は日本語の黒色に近く、青空の色ではない。関羽が跨がるのは赤兎馬^{せきとば}であろうか。赤茶色の悍馬が心なしに赤みが強い。

日本語で「青龍刀」というと、関羽の持つような柄の長い薙刀型だけでなく、刀身が反りかえり、刃先が広く、柄頭には環がある刀をさす。細身で鋭利な日本刀に比べ、幅が広く重さで叩き切る感の強い中国の刀の総称である。中国語では「刀」と言えば、日本語でいう「青龍刀」を指し、この日本語特有の用法は「青龍刀」という称の転用である。こうした用法の始まりは江戸末期から明治初期にかけてのころと言われるが、用例が少ない。

以下は昭和15(1940)年に夭逝した小熊秀雄の未発表作品の用例である。

国への土産には何が良いかいろいろと智慧をしぼった、そして結局支那兵の青龍刀をもってかへることにした(小熊秀雄「二人の従軍記者」)

この青龍刀は軍刀であることがわかる。「関羽の青龍刀」という原義とともに、日本人特有の呼称が『三国志』『水滸伝』から生まれた転用の例である。



4-6 三才図会 (明)王圻纂修 (明)男思義校正
万曆37(1609)年

都合によりこの画像はPDF版では公開していません。

4-図2 関羽の道行 歌川豊国(3代)
嘉永5(1852)年
早稲田大学演劇博物館所蔵
作品番号 100-2371

企画

筑波大学附属図書館

植松貞夫（館長）

西原清一（副館長・研究開発室長）

星野雅英（副館長）

附属図書館研究開発室

大塚秀明（大学院人文社会科学研究科助教授）

資料提供（敬称略）

佐山敬悦

茨城県近代美術館

国立歴史民俗博物館

早稲田大学演劇博物館

大塚秀明

富田健市

篠塚富士男

附属図書館企画展ワーキング・グループ

篠塚富士男（主査）

平岡 博

岡部幸祐

廣田直美

落合厚子

金藤伴成

中山知士

峯岸由美

特別講演会「三大奇書の図像と映像」

「中国編 連環画とテレビドラマ」

平成 18 年 10 月 8 日（日） 13:30～15:30

「日本編 マンガとアニメとエノケン映画」

平成 18 年 10 月 23 日（月） 13:30～15:30

講師 大塚秀明（大学院人文社会科学研究科助教授）

電子展示 Web ページ

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/sandaikisho/>

平成 18 年度筑波大学附属図書館企画展

中国三大奇書の成立と受容

— 『三国志』『水滸伝』『西遊記』はどのように読まれ、描かれたか —

平成 18 年 10 月 2 日 発行

発 行 筑波大学附属図書館 ©2006

〒 305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-2376

印 刷 前田印刷株式会社

〒 305-0033 茨城県つくば市東新井 14-3

TEL 029-851-6911

而末世奢縱肆其侈欲至使男女怨曠感動和氣惟
是崇不本淑懿故風教陵遲而大綱毀泯豈不惜哉
呼有國有家者其可以永鑒矣漢制帝祖母曰太皇
后帝母曰皇太后帝妃曰皇后其餘內官十有四等
因漢法母后之號皆如舊自夫人以下世有增損
祖建國始命王后其下五有夫人有昭儀有婕妤
谷華有美人文帝增貴嬪淑媛脩容順成良人明帝
淑妃昭華脩儀除順成官太和中始復命夫人登其
於淑妃之上自夫人以下凡十二等貴嬪夫人位



筑波大学
University of Tsukuba